

元気とハッピーと感動をあげたい

佐野美術館創立55周年・三島市制80周年記念

言霊の墨 金澤翔子の世界

2021.4.10[土]—5.23[日]



共に生きる
2013年

観

る者を勇気づけ、励
ましたいと書を発表
し続ける金澤翔子

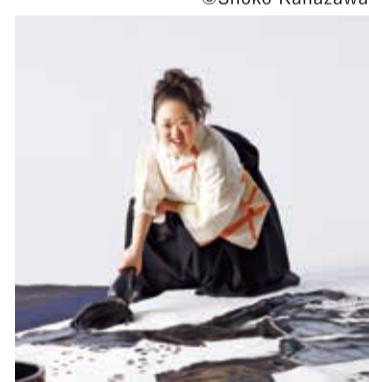
(1985-) の展覧会を開催します。書家の母・泰子は待望の我が子がダウン症であるとわかり、5歳から翔子に書を教え始めました。書道教室でお友達が出来た時、人生に困難が立ちはだかった時、肉親との辛い別れを経験した時、翔子の側には常に書がありました。

「20歳の記念に」と母が人生一度限りのつもりで企画した翔子の初個展は、予想を裏切り大きな反響を呼びました。会場を訪れた人々は、したためられた言葉とその本質を筆跡で表した作品に魅了され、その評判を聞いたメディアの取材が殺到したのです。

以降、全国各地から観客の前で筆を揮う席上揮毫の依頼が届き、近年ではニューヨークやチェコなど海外でも個展を開催し評判を呼んでいます。

何度も書き間違っては母に怒られ、涙があふれて止まらなかった。

それでも諦めず、10歳の時遂に書き上げた「涙の般若心経」。作品を完成させる根気や持続力を身に着けた、翔子の代表作のひとつです。本展では、その後も書と向き合いながら30歳の節目の年に書いた般若心経も併せてご紹介します。「共



©Shoko Kanazawa

に生きる」「希望」は東日本大震災に遭い、悲しみを抱いた人々に寄り添いたいと揮毫したものです。

大きな筆を両手で持ち、時に3メートルを超える大作に挑む気迫、作品が生まれる臨場感、席上揮毫の会場を訪れた参加者からは歓声が沸き上がります。時には、得意のマイケル・ジャクソンのダンスを披露することも。作品の魅力に加え、昨年は念願のYouTuberとしてデビューを果たし、天真爛漫な人柄で更にファンを増やしている金澤翔子の展覧会をぜひご覧ください。

(学芸グループ主任 志田理子)

ミュージアムショップ

言霊の墨 金澤翔子の世界 (4/10-5/23)

手ぬぐい
2,000円(税込)



金澤翔子さんの真筆作品も販売します

日程: 4/10~18、4/29~5/5、5/21~23

場所: 佐野美術館講堂

*日程や会場は諸事情により変更・中止となる場合があります

ボックスメモ 2種
各 693円(税込)

ブックカバー 4種
各 1,100円(税込)

『ねないこだれだ』誕生50周年記念 せなけいこ展 (5/29-7/4)



クッキー・ゴーフレット
各 972円(税込)



がま口ポーチ 全 4種
各 2,530円(税込)

「隆泉」2021年春号

通巻68号(年4回発行)

2021年4月1日発行

編集・発行/公益財団法人 佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43

TEL 055-975-7278

FAX 055-973-1790

<https://www.sanobi.or.jp/>

デザイン/きむら工房

印刷/松本印刷株式会社

「私のおばけの中に友達を見つけてくれたら、とてもうれしい」

(せなけいこ『ねないこはわたし』2016年、文藝春秋 より)

佐野美術館創立55周年・三島市制80周年記念

『ねないこだれだ』誕生50周年記念

せなけいこ展

2021.5.29[土]—7.4[日]



『ねないこだれだ』(1969年、福音館書店) ©Keiko Sena

絵

本作家・せなけいこ
(1931-) は、『ねないこ
だれだ』や『めがねう

さぎ』など、ロングセラーの絵本を
数多く生み出してきました。せな
さんの作品に見られる明快な配色
や温かく柔らかな風合いは、すべ
て「貼り絵」によるものです。

貼り絵の手法は、童画家・武井
武雄のもとで絵を学んでいたとき、
影絵を制作していた兄弟子から教
わりました。材料は、いろ紙や千

『めがねうさぎ』(1975年、ポプラ社)



代紙のほか、お菓子やお弁当の包
み紙、本屋のカバー紙や封筒の裏
など身近なものばかり。和紙を手
でちぎれば女の子のおかっぱ髪や
うさぎの耳に、絵柄入りの包装紙
を切り抜けば可愛い洋服の模様に
なります。貼り絵という独自の表
現方法を得たせなさんは、1969年
「いやだいやだの絵本」シリーズで
デビュー、たちまち人気の絵本作
家となりました。

せなさんの絵本といえば「おば
け」。デビュー作のひとつ『ねない
こだれだ』には、夜中まで起きてい
る女の子を連れていく、ちょっと
怖いおばけが登場しますが、「めが
ねうさぎ」に出てくるおばけは、主
人公のうさこをおどかそうとする
ものの、めがねを失くしたうさこには
見えず、代わりにめがねを探して
あげる、頼りなく優しい存在です。

どんな子どもにも、どんなおば
けにも等しく愛を注ぐせなさん

お話は「いい子がお手本」「おばけ
は恐るべき」などと考えがちな大
人たちの心をも解きほぐします。
幅広い世代に親しまれ、読み継が
れるゆえんです。

ひとの心をつなぎ笑顔を広げる
せなさんの「おばけ」。友達になろ
うよ!と、美術館で待っています。

(学芸グループ長 河内えり子)

『ひとつめのくに』(1974年、童心社)

